

献辞

久山紀彦教授は、平成21（2009）年3月31日をもって名古屋外国語大学を定年退職されることになりました。私たちは久山教授への感謝の気持ちと致しまして、大学での先生とそのプロフィールをご紹介することにより献辞といたしたく思います。

久山先生は国際ビジネスの分野、特にファイナンスをご専門領域にされてこられました。その経歴は東京大学（経済学部）の卒業とともに東京銀行（旧）へ奉職された時から始まるのですが、以後国際金融における第一線での活躍は、後でご紹介致しますように海外での要職の歴任をみても誠に輝かしいものがあります。

また、先生の学識が乞われ文部省（現・文部科学省）で、教科書の主任調査官をされた時代があります。以来、これを契機に学究への路を歩まれることとなります。

本学へのご就任は平成14（2002）年の4月になります。教壇においては、「国際金融」、「金融システム」、「企業金融」等を担当されましたが、豊富な実務経験に裏打ちされた教育指導は、学生にとって極めて意義深いものでありました。またゼミナールの主テーマ「証券投資の研究」では、先生の真摯なご性格に惹かれたと言うこともあるのですが、多くの鋭意の学生がつどい常に賑わいました。学生を大切にされる先生の教育姿勢は、多くの卒業生との絶えることのない交流のなかに見うけることができました。またそれは、先生のなにげないお話の中からもうかがうことができ大変うらやましい思いをさせられたものです。

創設期の国際ビジネス学科へのご貢献は特に大きなものがあります。一例をご紹介しますと学科では独自の観点から「企業調査」を実施しています。それは、学生が大学で学ぶ知識を確認し将来自己を実現するための貴重な資料です。また卒業生に対し学んだ知識がどのように生かされているかといった追跡の調査も実施しております。久山先生はその中心となられ労をいとわれずにアンケートの作成から集計まで格別のご尽力を頂きました。経済社会が大きく変化しようとする今、現実から乖離しない実学の教育を推進するためにはこの調査は大きな意味を持ち、その報告書は学部を超えて関心を引き、多くの方々から問い合わせをいただきました。

実学合わせてのご見識に加え清廉実直なお人柄は、大学内外において幅広く多くの人々の敬愛と人望を集められ、先生を中心とする集いの輪は学生・教職員の枠を超え、学問はもとより人生や文化、趣味の領域にまで話題が尽きませんでした。

学生時代にサッカーで鍛えた長身のお身体とスポーツマンの爽やかな雰囲気はキャリアにうらづけされた国際人としてのスマートさを彷彿とさせ周囲を魅了したものです。

久山先生のプロフィールを簡単にご紹介をさせていただきますと、

久山先生は、昭和38（1963）年3月、東京大学経済学部経済学科を卒業、同年4月、

(株)東京銀行に入行されました。昭和48年11月、ニューヨーク支店に配属、その後、加州東京銀行(サンフランシスコ)、ミラノ支店長、カナダ東京銀行頭取、東京銀行本店営業部長等を歴任されました。平成7(1995)年4月、文部省に入省、主任教科書調査官の職に就かれました。平成14(2002)年4月、本学国際経営学部教授に着任され、平成16(2004)年、国際経営学部が現代国際学部に改組されるにともない、同学部国際ビジネス学科教授となられるとともに、本学大学院国際コミュニケーション研究科教授を併任、学生の研究指導に当たられました。また、平成17(2005)年4月に中西学園中央図書館副館長、平成19(2007)年4月には、同館館長の要職に就かれました。

久山先生は、大学評議員として、あるいは学部運営委員会委員として、大学および学部の運営管理に当たっておられますが、これらの機会において、常に沈着冷静に事態を分析した上での発言は、極めて説得力をもつものでありました。

先生に対し、長年にわたる研究・教育上の業績および大学、学部の管理運営の功績により、平成21年4月1日付けで名誉教授の称号が授与されます。

現代国際学部国際ビジネス学科を代表して、今後とも、久山先生がご健康で、ますますご活躍されることを心よりお祈りして、献辞とさせていただきます。

平成21年3月1日
現代国際学部・国際ビジネス学科
学科長 稲福善男